

# (株)かんぽ生命保険 平成20年度 第1四半期決算の概要

平成19年10月1日の日本郵政公社の民営化で日本郵政公社から簡易保険事業の資産は主として株式会社かんぽ生命保険（以下「当社」といいます。）に、負債は主として独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構（以下「管理機構」といいます。）に承継されました。

当社は、平成19年度下半期より、新たな生命保険会社として生命保険業を営むとともに、管理機構が負債として承継した簡易生命保険契約を再保険として受再しております。

本資料は、このような特殊事情を踏まえ、以下の項目について当社の平成20年度第1四半期実績を記載するとともに、便宜上、日本郵政公社の19年度上半期及び当社19年度下半期のデータ等を掲載しております。

1 新契約の状況	1	5 資産運用の状況	5
2 保有契約の状況	2	6 基礎利益の状況	7
3 損益の状況	3	7 健全性の状況	8
4 資産・負債の状況	4		

# 1 新契約の状況

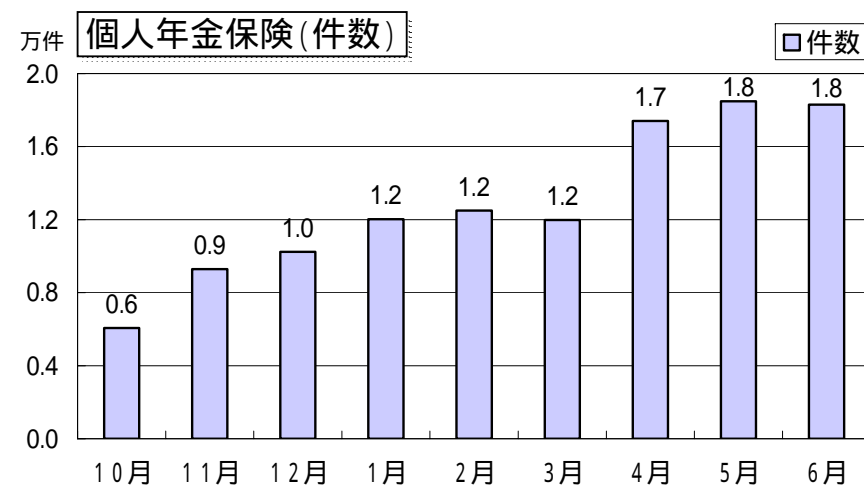
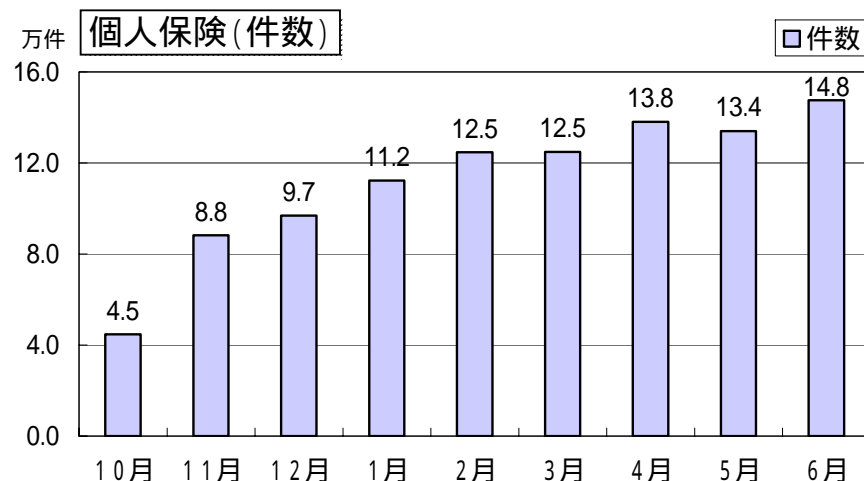
平成20年度第1四半期の新契約は、個人保険が42万件、金額1兆1,705億円、個人年金保険が5万4千件、金額1,877億円となりました。

(単位未満四捨五入)

(単位:件、百万円)

	平成20年度第1四半期新規契約 (平成20年4月～平成20年6月)		平成19年度新規契約 (平成19年10月～平成20年3月)	
	件数	金額	件数	金額
個人保険	419,514	1,170,545	591,599	1,635,047
普通終身	58,462	180,891	73,998	230,142
定額型	6,854	15,251	9,272	20,253
倍型	51,608	165,640	64,726	209,889
特別終身	22,292	60,137	27,183	73,045
介護終身	17	44	18	67
普通定期	211	460	266	718
普通養老	177,806	452,339	228,184	580,291
特別養老	98,708	412,079	149,637	637,008
特定養老	4,127	3,995	6,218	5,861
学資保険	57,795	60,183	105,890	107,167
上記以外	96	417	205	748
個人年金保険	54,192	187,746	62,080	217,262
終身年金	1,328	10,222	1,912	15,506
定期年金	52,862	177,513	60,155	201,657
夫婦年金	2	12	13	98

【参考】月別新契約件数の推移(H19.10～H20.6)



## 2 保有契約の状況

平成20年度第1四半期のかんぽ生命の保有契約は、個人保険100万件、金額2兆8千億円、個人年金保険11万6千件、金額4千億円となっております。

また、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構から受再している契約は、保険5,074万件、保険金額140兆円、年金保険615万件、年金額2兆3千億円となっております。

(単位未満四捨五入)

### 【参考】受再している簡易生命保険の契約状況

(単位:件、百万円)

(単位:件、百万円)

	かんぽ生命の保有契約			
	(保険者:株式会社かんぽ生命保険)			
	平成20年6月末		平成20年3月末	
	件数	金額	件数	金額
個人保険	1,001,862	2,777,552	588,970	1,626,980
普通終身	130,814	405,827	73,518	228,605
定額型	15,935	35,098	9,207	20,095
倍型	114,879	370,729	64,311	208,509
特別終身	48,933	131,752	27,005	72,532
介護終身	35	111	18	67
普通定期	466	1,156	263	715
普通養老	402,920	1,024,371	227,282	577,826
特別養老	245,678	1,037,306	148,901	633,823
特定養老	10,227	9,747	6,187	5,829
学資保険	162,498	166,158	105,595	106,855
上記以外	291	1,125	201	728
個人年金保険	115,940	401,080	61,985	216,033
終身年金	3,188	25,291	1,899	15,389
定期年金	112,737	375,679	60,073	200,546
夫婦年金	15	110	13	98

	簡易生命保険の保有契約					
	(保険者:独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構)				(保険者:日本郵政公社(当時))	
	平成20年6月末		平成20年3月末		平成19年9月末	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
保険	50,740,956	140,273,975	52,180,183	144,156,383	55,179,692	152,298,879
普通終身	5,845,393	13,320,617	5,911,341	13,458,701	6,037,550	13,700,659
定額型	2,319,838	5,346,909	2,335,791	5,384,028	2,367,177	5,456,120
倍型	1,124,165	3,324,487	1,142,082	3,378,197	1,168,631	3,451,588
特別終身	6,385,487	15,119,888	6,447,819	15,240,200	6,577,000	15,478,932
介護終身	9,295	29,447	9,378	29,709	9,518	30,130
普通定期	11,568	53,263	12,040	55,579	12,607	59,300
普通養老	17,276,213	42,336,301	17,980,596	44,071,789	19,264,113	47,243,499
特別養老	10,390,447	48,180,448	10,660,591	49,428,296	11,324,192	52,441,371
特定養老	168,421	305,626	170,096	308,764	173,112	314,368
学資保険	8,218,796	15,260,077	8,388,211	15,569,363	8,869,136	16,393,243
上記以外	2,435,336	5,668,307	2,600,111	5,993,983	2,912,464	6,637,377
年金保険	6,154,906	2,259,413	6,298,160	2,310,152	6,562,824	2,404,505
終身年金	1,415,427	447,309	1,421,812	449,415	1,433,711	453,443
定期年金	4,608,136	1,776,040	4,744,834	1,824,621	4,997,338	1,914,874
夫婦年金	131,234	36,062	131,405	36,114	131,666	36,186

(注)簡易生命保険契約の計数については、管理機構及び郵政公社における公表基準によるものです。そのため、かんぽ生命契約と簡易生命保険契約については、単純に比較することができません。

### 3 損益の状況

平成20年度第1四半期は、経常収益3兆6,053億円、経常費用3兆5,180億円、経常利益872億円となりました。経常利益に、特別損益として価格変動準備金戻入額492億円を加え、契約者配当準備金として1,056億円を繰り入れた結果、税引前四半期純利益は308億円となり、四半期純利益は178億円となりました。

(単位:億円(単位未満切捨))

	平成20年度 第1四半期 (20.4.1~20.6.30)	平成19年度 (19.4.1~20.3.31)
経常収益	36,053	76,868
保険料等収入	20,001	38,866
資産運用収益	4,470	8,713
その他経常収益 (注1)	11,580	29,288
経常費用	35,180	76,748
保険金等支払金	33,197	61,496
責任準備金等繰入額 (注2)	66	7,395
資産運用費用 (注3)	508	4,948
事業費	1,264	2,665
その他経常費用	143	242
経常利益	872	119
特別利益 (注4)	492	1,135
特別損失	-	1
契約者配当準備金繰入額 (注5)	1,056	1,069
税引前四半期(当期)純利益	308	184
法人税及び住民税 (注6)	18	1,545
法人税等調整額 (注6)	111	1,438
四半期(当期)純利益	178	76

注1 その他経常収益は、責任準備金戻入額11,545億円(危険準備金繰入額54億円を相殺後)等です。

注2 平成20年度の責任準備金等繰入額は、契約者配当金積立利息繰入額です。

注3 平成19年度の資産運用費用は、減損3,498億円等です。

注4 特別利益は、価格変動準備金が保険業法施行規則で定める積立限度額を超過したことに伴う戻入額492億円(平成19年度1,135億円)です。

注5 契約者配当準備金繰入額は、管理機構との再保険契約に基づく配当準備金への繰り入れです。

注6 法人税及び住民税、法人税等調整額は、平成19年度期末決算における税務調整額及び税効果会計等によるものです。

# 4 資産・負債の状況

総資産は、平成20年3月末比1兆3千億円減少し、1兆1千1百20億円となりました。  
純資産は、その他有価証券の含み損が改善したこと等により1,403億円増加し、1兆445億円となりました。

(単位:億円(単位未満切捨))

	平成20年度 第1四半期末 (20年6月30日)	平成19年度末 (20年3月31日)	差額 -
<b>資 産</b>	1,112,193	1,125,246	13,053
現金及び預貯金	12,162	20,801	8,639
金銭の信託	17,446	18,615	1,169
有価証券	849,713	855,688	5,975
貸付金	199,015	199,212	196
有形固定資産	1,160	978	181
無形固定資産	466	443	23
代理店貸 (注1)	1,534	1,377	156
その他資産 (注2)	4,855	2,758	2,096
繰延税金資産 (注3)	1,535	2,341	806
<b>負債及び純資産</b>	1,112,193	1,125,246	13,053
<b>負 債</b>	1,101,747	1,116,204	14,456
保険契約準備金	1,073,383	1,084,799	11,416
その他負債 (注4)	22,735	25,289	2,553
退職給付引当金	529	523	6
価格変動準備金	5,097	5,590	492
<b>純資産</b>	10,445	9,042	1,403
資本金	5,000	5,000	-
資本剰余金	5,000	5,000	-
利益剰余金	457	278	178
株主資本合計	10,457	10,279	178
その他有価証券評価差額金	12	1,236	1,224

注1 「代理店貸」は、かんぽ生命が郵便局会社に委託している保険金等の支払に充てるために前渡している資金です。

注2 その他資産は、未収収益4,058億円(平成19年度末2,559億円)等です。

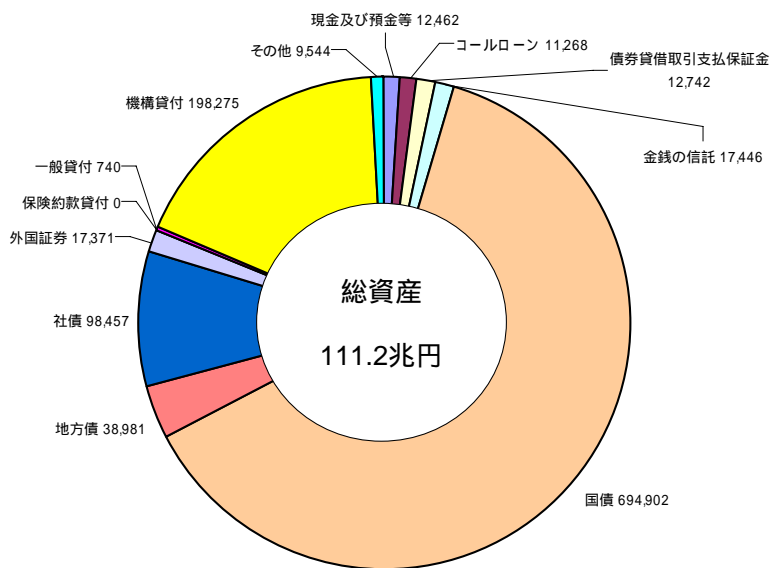
注3 繰延税金資産は、危険準備金、既発生未報告支払備金、審査中の支払備金等の将来減算一時差異、その他有価証券評価差額金等です。

注4 その他負債は、債券貸借取引受入担保金15,213億円、機構預り金4,809億円等です。

# 5 資産運用の状況

かんぽ生命の資産運用は、国債を中心とした有価証券が8.4兆円、貸付金が1.9兆円等で20年6月末の残高は、1.11兆2千億円となっております。

## 1 資産構成



(単位: 億円)

## 2 資産残高

	平成20年度 第1四半期末 (平成20年6月30日)	平成19年度末 (平成20年3月31日)	事業開始時 (平成19年10月1日)
資産残高	111.2兆円	112.5兆円	113.7兆円

## 3 運用利回り

	平成20年度 第1四半期 (20.4.1~20.6.30)	平成19年度 (19.10.1~20.3.31)	【参考】 平成19年9月期 (公社) (19.4.1~19.9.30)
運用利回り	1.44 % (1.62 %)	0.67 % (1.68 %)	2.87 % (1.69 %)

注 運用利回りは、キャピタル損益等を含めた利回りです。

( )内は、基礎利益上の運用収支(キャピタル損益を含まない運用収益)等の経過責任準備金に対する利回りです。

### 【参考】証券化商品等への投資及びサブプライム関連投資の状況

- ・ 米国政府系機関保証債・政府支援機関発行債及びサブプライム関連への投資は行っていません。

(単位: 億円(単位未満切捨))

区分	平成20年度第1四半期末	
	時価	含み損益
RMBS	2,002	5

(注) 当社で保有するRMBSについては、日本国内の住宅ローンを裏付資産としたものです。

# 5 資産運用の状況

その他有価証券の含み損は18億円となっております。(税効果会計適用後は12億円)  
満期保有目的債券及び責任準備金対応債券を含めた有価証券全体では1,541億円の含み益となっております。

## 4 含み損益の状況

(単位:億円(単位未満切捨))

	帳簿価額	含み損益(税効果適用前)	
	平成20年度 第1四半期末 (20年6月30日)	平成20年度 第1四半期末 (20年6月30日)	平成19年度末 (20年3月31日)
<b>合 計</b>	<b>876,709</b>	<b>1,541</b>	<b>13,316</b>
満期保有目的の債券	324,956	2,343	8,205
責任準備金対応債券	430,643	782	7,048
その他有価証券	121,109	(注1) 18	(注2) 1,938
有価証券等	103,519	124	229
金銭の信託	17,589	143	2,167

注1 税効果適用後の金額は、12億円になります。

注2 税効果適用後の金額は、1,236億円になります。

## 5 金銭の信託で保有する株式の含み損益がゼロになる株価水準

	平成20年度 第1四半期末 (20年6月30日)	平成19年度末 (20年3月31日)	事業開始時 (19年10月1日)	公社閉鎖時 (19年9月30日)
日経平均株価	14,300 円	14,500 円	(注3) 16,785 円	9,800 円

注3 金銭の信託は、時価評価した価格で公社から当社へ承継したため、事業開始時以降、株式の含み損益がゼロになる株価水準が高くなりました。

(参考) 日経平均株価、円相場の推移

	平成20年6月末	平成20年3月末	平成19年9月末
日経平均株価	13,481円	12,525円	16,785円
円ドル	106.42円	100.19円	115.43円
円ユーロ	168.07円	158.19円	163.38円

# 6 基礎利益の状況

平成20年度第1四半期の基礎利益は1,111億円となりました。

逆ざやが1,100億円発生しておりますが、死亡率・入院率の低下等による利益である「危険差益」、事業の効率化による利益である「費差益」によりカバーされ、三利源を合計した基礎利益はプラスとなっているものです。

平均予定利率は2.05%で、利子利回り1.62%との差は0.43%です。

## 基礎利益の内訳（三利源）

	危険差益	費差益	利差益（逆ざや）	合計（基礎利益）
三利源	900億円	1,300億円	1,100億円	1,111億円

## （参考1） 基礎利益の推移

	平成19年度（公社） (19.4.1～19.9.30)	平成19年度（かんぽ） (19.10.1～20.3.31)	平成20年度第1四半期 (20.4.1～20.6.30)
基礎利益	3,085億円	2,672億円	1,111億円

## （参考2） 基礎利益上の平均予定利率

	平成19年度（公社） (19.4.1～19.9.30)	平成19年度（かんぽ） (19.10.1～20.3.31)	平成20年度第1四半期 (20.4.1～20.6.30)
平均予定利率	2.07 %	2.06 %	2.05 %
利子利回り	1.69 %	1.68 %	1.62 %

注1 平均予定利率は、予定利息の経過責任準備金に対する利回りのことです。

経過責任準備金は危険準備金を除いた責任準備金により次の式で計算しています。（期始責任準備金＋期末責任準備金－予定利息）×1/2

注2 「利子利回り」は、基礎利益上の運用収支（キャピタル損益を含まない運用収益）等の経過責任準備金に対する利回りのことです。



# 7 健全性の状況

平成20年度第1四半期決算では、危険準備金3兆816億円及び価格変動準備金5,097億円を合わせた3兆5,914億円を内部留保として積み立てております。

また、逆ざや等を補填するための「追加責任準備金」を7兆1,033億円積み立てております。

## 1 内部留保の積立状況

(単位:億円(単位未満切捨))

	平成20年度第1四半期末 (平成20年6月30日)	平成19年度末 (平成20年3月31日)	事業開始時 (平成19年10月1日)
危険準備金	30,816	30,762	33,162
限度額(充足率)	35,254 (87%)	35,690 (86%)	35,305 (94%)
価格変動準備金	5,097	5,590	6,725
限度額(充足率)	5,097 (100%)	5,590 (100%)	(注1) 6,626 (101%)
内部留保合計	35,914	36,352	39,887

注1 会社から承継した価格変動準備金は、保険業法施行規則で定める積立限度額を超過しているため、平成19年度末において超過額を戻入しております。

## 2 追加責任準備金の積立状況

	平成20年度第1四半期末 (平成20年6月30日)	平成19年度末 (平成20年3月31日)	事業開始時 (平成19年10月1日)
追加責任準備金	7兆1,033億円	7兆1,925億円	7兆3,779億円

## 3 ソルベンシー・マージン比率

	平成20年度第1四半期末 (平成20年6月30日)	平成19年度末 (平成20年3月31日)	事業開始時 (平成19年10月1日)
ソルベンシー・マージン比率	(注2) 1,266.7%	1,116.3%	1,117.9%

注2 平成20年度第1四半期末は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に準じて、当社が合理的と判断する方法で算出しております。